ORGANISATION FOR ECONOMIC
CO-OPERATION AND DEVELOPMENT

OECD 経済見通し

Randall S. Jones

**ランダル・ジョーンズ
経済局日本・韓国課長
2014年11月25日**

世界の経済成長は低調にとどまる

世界のGDP成長率

年率%、季節調整値

貿易の伸びは低調

貿易結合度¹

Index, 1990=100

1. 輸出額+輸入額の対GDP比を1990年=100により指数化したもの。

出典: OECD Economic Outlook database

労働市場： 状況はまちまち 改善には緩慢さが残る

失業率
Per cent

失業者数
百万人

主要先進国において、需要の状況もまちまち

一人当たり民間設備投資

指数, 2005 = 100

一人当たり民間消費

指数, 2005 = 100

出典: OECD 国民経済計算データベース; OECDの計算による。

新興国経済の成長トレンドもまちまち

一人当たりGDP 実質, 2005=100

Source: OECD 国民経済計算データベース; IMF WEOデータベース; インド 中央統計機構、OECDによる計算

2015-16年の経済見通し

GDP
実質成長率, %

	2013	2014	2015	2016
World	3.1	3.3	3.7	3.9
United States	2.2	2.2	3.1	3.0
Euro area	-0.4	0.8	1.1	1.7
Japan	1.5	0.4	0.8	1.0
China	7.7	7.3	7.1	6.9
India	4.7	5.4	6.4	6.6
Brazil	2.5	0.3	1.5	2.0
Russia	1.3	0.3	0.0	1.6

2015-16年の経済成長見通し

GDP 成長率 Per cent

リスク

ユーロ圏の停滞懸念が高まった

物価

HIPC, 前年同月比

GDP

前年比、%

注: 影は、過去の分散を元に+/- 両方向に1標準偏差の幅を示したものの。

出典: OECD Economic Outlook database

新興国経済への純投資流入が逆流する可能性もある

中国を除くBRIICS諸国への累積純投資流入額

対GDP比、%、2006年Q1からの累積

先進国経済の債務水準は高く、中国の信用の伸びは急激

金融法人を除く負債水準

対GDP比、%

中国: 民間非金融法人への信用

対GDP比、%

潜在成長率はさらに下がる可能性がある

潜在成長率 年平均, %

主な政策提言

世界経済の成長は控えめなものにとどまり、各国間における差が大きくなってきている

金融リスクは高まり、ボラティリティが上昇しようとしている

潜在成長率が停滞し、需要の弱さと相互に作用している

ユーロ圏の弱さが主要な懸念である

リスクに対処し、成長を下支えするため、金融政策、財政政策、構造政策の全てが援用されなければならない

金融政策、財政政策、構造政策により 成長を下支えすべき

金融政策はほとんどの国で緩和的であるべきであり、ユーロ圏ではより積極的な量的緩和が必要

財政健全化は目覚しく進展しており、多くの国において調整速度を落とす余地を生んでいる

大胆な構造改革により、投資、貿易、雇用を生み出すことが必要

日本

短期の経済見通し¹

前年比、%

	2012	2013	2014	2015	2016
需要とアウトプット(実質)					
GDP	1.5	1.5	0.4	0.8	1.0
消費					
民間最終消費支出	2.0	2.0	-0.9	1.0	1.2
政府最終消費支出	1.7	2.0	0.3	0.3	0.5
総固定資本形成	3.5	2.6	3.7	-1.0	-0.5
公的固定資本形成 ²	3.1	11.3	4.8	-6.8	-17.7
民間住宅	3.0	8.8	-4.0	-1.5	3.6
民間企業設備	3.7	-1.5	5.1	1.0	4.0
最終需要	2.3	2.1	0.3	0.4	0.7
民間在庫品増加 ³	0.1	-0.3	0.1	0.0	0.0
国内需要	2.3	1.9	0.4	0.4	0.7
財貨・サービス輸出	-0.2	1.6	7.8	6.2	6.7
財貨・サービス輸入	5.3	3.4	6.9	3.2	4.6
純輸出 ³	-0.9	-0.3	-0.1	0.4	0.3

1. 10%への消費税増税が2017年に延期されたことを反映している。
2. 公的企業を含む。
3. GDP成長率への寄与。

出典: OECD Analytical Database、OECDによる計算・予測による。

日銀短観によると企業の業況判断は高水準を維持¹

1. 業況判断指数は、「良い」と答えた割合から「悪い」と答えた割合を差し引いた値。大企業は資本金10億円以上の企業、中小企業は資本金2000万円から1億円の企業。2014年Q4の値は2014年9月調査における先行きの値。

出典：日本銀行。

名目賃金の上昇は物価上昇に追いついていない

前年比、%¹

1.現金給与総額（ボーナスを含む）。データは3ヶ月移動平均。
出典：厚生労働省

短期の経済見通し

前年比、%

	2012	2013	2014	2015	2016
雇用、物価、政府収支					
GDP デフレーター	-0.9	0.6	1.6	1.7	1.4
消費者物価 ¹	0.0	0.4	2.9	1.8	1.6
コアCPI ^{1,2}	-0.5	-0.1	1.9	1.6	1.6
失業率	4.3	4.0	3.6	3.5	3.5
GDP ギャップ	-0.7	0.2	-0.2	-0.2	0.0
<i>Memorandum items:</i>					
世界の貿易の伸び率	3.0	3.3	3.0	4.5	5.5
純政府貸出（借入）	-8.7	-9.0	-8.3	-7.3	-6.3
基礎的財政収支	-7.8	-8.1	-7.2	-6.2	-5.4
公的粗債務残高（% of GDP）	216.5	224.2	230.0	232.8	236.7
公的純債務残高（% of GDP）	129.4	137.2	142.9	146.8	149.6
家計貯蓄率（%）	1.3	0.4	1.8	1.9	1.8
経常収支（% of GDP）	1.1	0.7	0.1	0.9	1.4

1. 2014年4月の消費税率の5%から8%への引上げの影響を含む。
2. コアCPIはOECDによる定義（食糧及びエネルギーを除くベース）。
出典: OECD Analytical Database and OECDによる計算・予測による。

アベノミクスの第一の矢： 量的・質的金融緩和による大胆な金融政策

中央銀行の資産
対GDP比、%

出典: Datastream; 各国中央銀行による。

量的・質的金融緩和は物価上昇期待を高め、**2013年後半**に物価の基調を前年比プラスに押し上げることに寄与。

しかし、消費税増税前に前年比**1½%**にまで上昇した物価上昇率は、**2014年後半**に消費税増税の影響を除くベースで**1%**程度に減速する見込み。

日本銀行の「量的・質的金融緩和」は年間**80兆円**のペースでマネタリー・ベースを増加させている。

物価は2014年初頭から低下傾向

前年比、%

アベノミクスの第2の矢：柔軟な財政政策

基礎的財政収支の改善幅 対潜在成長率、%

出典: OECD Economic Outlook database

2014年の消費税引き上げにもかかわらず、2011年の東日本大震災の影響もあり、2010年から14年の間、財政収支の改善は見られない。

2015年から16年にかけては、歳出削減により収支に若干の改善が見られる見込み。

日本は、引き続き、財政上の困難に立ち向かわなければならない。

一般政府ベースの歳出、歳入と社会保障支出 対GDP比、%

出典: OECD Analytical Database

OECD諸国に比べ、基礎的財政収支の改善に遅れ¹

一般政府ベースの基礎的財政収支

1. 2014年はOECDによる推計値、2015-16年は予測値。
出典: OECD Economic Outlook 96.

日本の公的債務残高は90年代前半以降急増¹

公的債務残高（グロス）、一般政府ベース、対GDP比（%）

1. 2014年はOECDによる推計値、2015-16年は予測値。
出典: OECD Economic Outlook 96.

Disclaimers:

The statistical data for Israel are supplied by and under the responsibility of the relevant Israeli authorities. The use of such data by the OECD is without prejudice to the status of the Golan Heights, East Jerusalem and Israeli settlements in the West Bank under the terms of international law.

This document and any map included herein are without prejudice to the status of or sovereignty over any territory, to the delimitation of international frontiers and boundaries and to the name of any territory, city or area.

OECD Economic Outlook, November 2014

- [Website with additional information](#)
- [Read this publication online](#)

[Compare your country with OECD data](#)

OECD Economic Surveys

JAPAN

SPECIAL FEATURE: FROM TRAGEDY TO REVITALISATION

Most recent editions

Australia, December 2012
Austria, July 2011
Belgium, July 2011
Brazil, October 2011
Canada, June 2012
Chile, January 2012
China, March 2013
Colombia, January 2013
Czech Republic, November 2011
Denmark, January 2012
Estonia, October 2012
Euro area, March 2012
European Union, March 2012
Finland, February 2012
France, March 2013
Germany, February 2012
Greece, August 2011
Hungary, March 2012
Iceland, June 2011
India, June 2011
Indonesia, September 2012
Ireland, October 2011

Israel, December 2011
Italy, April 2013
Japan, April 2013
Korea, April 2012
Luxembourg, December 2012
Mexico, May 2011
Netherlands, June 2012
New Zealand, April 2011
Norway, February 2012
Poland, March 2012
Portugal, July 2012
Russian Federation, December 2011
Slovak Republic, December 2012
Slovenia, April 2013
South Africa, March 2013
Spain, November 2012
Sweden, December 2012
Switzerland, January 2012
Turkey, July 2012
United Kingdom, February 2013
United States, June 2012

Consult this publication on line at http://dx.doi.org/10.1787/eco_surveys-jpn-2013-en.

This work is published on the OECD iLibrary, which gathers all OECD books, periodicals and statistical databases.
Visit www.oecd-ilibrary.org for more information.

Volume 2013/8
April 2013

OECD publishing
www.oecd.org/publishing

ISSN 0376-6438
2013 SUBSCRIPTION (18 ISSUES)
ISSN 1995-3062
SUBSCRIPTION BY COUNTRY

ISBN 978-92-64-18291-2
10 2013 08 1 P 9 789264 182912

OECD Economic Surveys

Volume 2013/8

JAPAN

April 2013

OECD Economic Surveys JAPAN

APRIL 2013